

番組「ビキニ水爆実験、そして…」を見て

福島第一原発事故後の除染、食の安全の報道を見聞きするにつけ、1945年の原爆投下や'54年のビキニ環礁での水爆実験当時、放射能被爆の怖さ、恐ろしさは十分認識されてなかったとはいえ、原発事故と関連させて広島・長崎の除染問題はどうなっていたのか、また、いわゆる「第五福竜丸事件」後の食の安全問題はどうなっていたのかに関連する報道がなされないのを不思議に感じていた。

先日、「放射線を浴びた X 年後 ビキニ水爆実験、そして…」と題するドキュメンタリー番組を見た。

3ヶ月で6回の水爆実験当時、約千隻の漁船がビキニ海域で漁をしていたのに、第五福竜丸が被曝した事件としてしか知られていないことに疑問を持った高知県の高校教師が、30年後の'80年半ばから他船の乗組員や家族を取材・調査し、元乗組員の1/3が壮年期にがんで亡くなっていることを突き止めた。

その調査・資料に地方TV局のディレクターが光を当て、'2003年から調査報道を開始し被災者や家族の苦悩の日々の証言を記録し、「死の灰」が日本まで拡がっていたことを示す米国の秘密文書の特報した。

水揚げされた汚染マグロは破棄されていたが、7ヶ月後日本政府は突然放射能検査を打ち切り、数日後には米国の責任を追及しないことを条件に米国が200万ドルの見舞金を支払うことで、両国政府が文書を交わして事件に幕を引いたとか。

また、被爆によりガン等で死んでいった元乗組員は、発病しても日米両政府からなんの救済もなく、また国民に知らされることもなく、闇に葬られた被曝者ともいえる。

この番組は地方局でも深夜の放送で殆ど反応はなかったようで、今回の全国放送も深夜であったことから推測して、恐らく福島原発事故がなければ日の目をみなかったかもしれないだけに、今こそ福島原発事故に関連して過去の真実の情報と政府の対応を調査・検証して報道することこそ報道機関の責務のように思える。

そして、我々も番組からの元乗組員や家族の訴えを「決して忘れてはならない」義務があるように思うし、そのことが、福島県民等から「闇に葬られる被害者」を出さないことへの国民としての連帯でないかと思う。

追伸：原発事故の今だからこそ、この番組がゴールデンタイムで再放送されることを願う。